

平成14年度 21世紀COEプログラム 採択拠点の採択理由

【学際・複合・新領域】

拠点のプログラム名称	機 関 名	拠点リーダー名	採択理由
生態地球圏システム劇変の予測と回避	北海道大学	池田 元美	中心となっている2つの研究科と研究所は、地球環境問題に関してかなりの業績を上げてきている。 また、この拠点形成計画は、目的方向などが比較的良く絞り込まれており、その発展が期待できる。
健康・スポーツ科学研究の推進	筑波大学	西平 賀昭	医学系と体育・スポーツ系を融合する拠点形成計画は、筑波大においてのみ可能で、社会的ニーズにも合致しており、期待するところが大きい。本研究教育拠点がどのような道をたどって真に世界最高水準になりうるか、さらには、出てくる研究業績が国際レベルでいかに評価されるか、注目に値する。
融合科学創成ステーション	東京大学	浅島 誠	教養学部等として学際的研究教育体制を作り上げてきた経験を持つ研究者の中から、業績のある人々を選んで新しい分野を創成する意欲的な構想であり、大いに評価できる。測って作ってモデル化する従来の手法に対し、「個」を見る構想を打ち立て、サイエンスそのものを見直す観点の強まることが期待できる。
史資料ハブ地域文化研究拠点	東京外国語大学	藤井 毅	地球上の諸言語が急速に消滅していく今日、オーラル＝アーカイブに関する調査研究を進めようとの拠点形成プログラムは、特に緊急を要する重要な内容である。これまで多くの現地語記録・文献を収集してきた業績が、いっそう大きく発展するものと期待できる。
新エネルギー・物質代謝と生存科学の構築 (経済性・安全性を主眼とした農工融合型物質エネルギー代謝と生存科学体系の構築)	東京農工大学	堀尾 正毅	単なる連携ではなく農工融合を進めようとの、この大学の特色を見据えた視点は、ある程度評価できる。「農」の視点を柱にした、その「再生」あるいは「ポスト農」指向をさらに強く打ち出し、いっそう具体的な計画を立てて進められることを期待する。
生物・生態環境リスクマネジメント	横浜国立大学	浦野 紘平	これまでの多くの実績に基づいた計画となっており、その点高く評価できる。過去にはなかなか難しかった、生物・生態環境リスクの評価に努力を集中し、その理念・方法を確立することが期待できる。
環日本海域の環境計測と長期・短期変動予測 (モニタリングネットワークの構築と人為的影響の評価)	金沢大学	早川 和一	環日本海域の環境問題は重要であり、この地域に関して多様な拠点形成の申請があったが、本提案は比較的明確に的を絞ったものとなっている。環境計測そのものにおいてその一中核拠点となり、ネットワーク構築の取組みを強く進められることを期待する。

【学際・複合・新領域】

拠点のプログラム名称	機 関 名	拠点リーダー名	採択理由
野生動物の生態と病態からみた環境評価	岐阜大学	平井 克哉	野生動物の生態研究という目標に対する、連携大学院を使ったユニークな構想であり、その試みは高く評価できる。従来の獣医学を大きく越えた、生物環境科学としての大きい発展が期待できる。
未来社会の生態恒常性工学	豊橋技術科学大学	藤江 幸一	目的指向型の拠点形成計画であり、また、現在行われている教育面での努力については評価すべきところがある。具体的に焦点を絞り、強化分野を順序づけし、その間の連携をいっそう強く進めることを期待する。
世界を先導する総合的地域研究拠点の形成 (フィールド・ステーションを活用した教育・研究体制の推進)	京都大学	加藤 剛	現地において文理融合を実践的にめざしており、とくに東南アジアとアフリカにおける実証的な研究は高く評価できる。現地教育の展開を含め、新たなフィールドワーク拠点の形成を、具体的に試みることが期待できる。
環境調和型エネルギーの研究教育拠点形成	京都大学	笠原 三紀夫	複数の異分野の研究者によるエネルギー科学を、いち早くまとめた機関を作り上げ、かなりの実績を上げていることは評価できる。環境への調和を目標とする視点で、いっそう学際的な取り組みを進められることが期待できる。
災害学理の究明と防災学の構築	京都大学	河田 恵昭	創設以来、日本の防災・減災研究の拠点として実績があり、かつ数年前の改組により、拠点として成果のあがる可能性も大きいと評価できる。社会の将来の変化に対応しながら、新しい防災学の構築に向けての、いっそうの取り組みが期待できる。
新産業創造指向インターナショナルサイエンス	大阪大学	川合 知二	現有の5領域それぞれの実績は、高く評価できる。研究実績を大学院学生への教育実績に生かし、人材育成のモデルとなり、博士号取得者の「キャリア＝パス」開拓の先駆的役割を果たすことが期待できる。
乾燥地科学プログラム	鳥取大学	稲永 忍	研究はユニークであり、またリーダーの意欲は高く、さらに大学全体としての強い支援も充分で、評価できる。海外拠点との連携に関する構想を大いに進め、世界的研究拠点となることが期待できる。

【学際・複合・新領域】

拠点のプログラム名称	機 関 名	拠点リーダー名	採択理由
沿岸環境科学研究拠点	愛媛大学	田辺 信介	過去の実績があり、研究計画の焦点も明確である。 また、スペシメン＝バンクは価値の高いものであり、国内での共有化を図る方向を第一優先として進んでいくことは有意義で、高く評価できる。新しい展開を踏まえての、事業の推進が期待できる。
海洋エネルギーの先導的利用科学技術の構築	佐賀大学	門出 政則	「海洋温度差発電」に関する過去の成果をさらに発展させ、実用を目指して取り組むユニークな計画である。「ユニークな研究プログラム」から、「実用可能なエネルギー源」が生まれることを信じている。
放射線医療科学国際コンソーシアム	長崎大学	朝長 万左男	放射線の健康への影響解析については長い歴史を有し、国際的研究プロジェクト推進の実績もあり、評価できる。国際コンソーシアムの形成と放射線医療学分野の国際的人材育成を目指して、その発展が期待できる。
先導的健康長寿学術研究推進拠点	静岡県立大学	木苗 直秀	ヘプチド化学の優れた業績の上にたつての、食品科学と薬学の融合はユニークであり、県立大学としての特色を出したものでして、高く評価できる。社会のニーズと適合するものであり、社会人教育の成果も期待できる。
水を反応場に用いる有機資源循環科学・工学	大阪府立大学	吉田 弘之	水を中心に据えるこの計画は、興味あるものであり、リーダーの意欲も認められ、廃棄物処理の一つの技術として評価できる。水の面白さをもっと前面に出すなど、拠点としての性格をいっそう明確にされることを期待する。
次世代メディア・知的社会基盤	慶應義塾大学	徳田 英幸	藤沢キャンパスの活力を生かし、情報メディアと政策科学の研究者の間で創造的協調作業を進展させるという大胆な計画で、高く評価できる。今日的・合目的な着想であり、情報メディアと政策科学の研究者の間で、創造的協調作業を進展させ行くことが期待できる。
地域立脚型グローバル・スタディーズの構築	上智大学	石澤 良昭	カンボジア、とくにアンコール＝ワットでの歴史文化の統合調査研究・交流などの業績は評価できる。上智大学らしい国際性を活かし、グローバル＝スタディーズの構築をさらに具体的にすすめることを期待する。

【学際・複合・新領域】

拠点のプログラム名称	機 関 名	拠点リーダー名	採択理由
全人的人間科学プログラム (脳の学習・記憶・推論・思考のメカニズムの究明とその教育技術への応用)	玉川大学	塚田 稔	玉川大学における全人教育プログラムは、評価できる。 また、遺伝子から神経回路網にわたる計算論と生物実験とを融合した脳科学は、ある程度ユニークな地位を占めている。焦点をしばって、先端的なセンター創成につなげられることを期待する。
現代アジア学の創生	早稲田大学	毛里 和子	アジア太平洋地域に研究・教育の焦点をあててきた、これまでの実績は評価できる。そのポテンシャルを生かし、目標をいっそう明確にしながら、計画を進められることを期待する。
国際中国学研究センター	愛知大学	加々美 光行	従来のユニークな中国学研究の流れと、本国での研究を重視する現地主義の観点を評価する。中国の研究者と協力し、現地社会をインテンシブに研究する分野を含めて多角的な研究を行なうなど、新たな展開が期待できる。